

日本海水学会若手会第8回学生研究発表会を終えて

鈴木 祐麻*

春の訪れをようやく感じ始めた平成29年3月2日（木）、3日（金）に、若手会第8回学生研究発表会が山口県下関市の海峡メッセで開催されました。今回の学生研究発表会は若手会創立10周年の記念イベントということもあり、80名を超える多くの参加者が全国から下関に集結して熱い発表・議論が繰り広げられました。1日目に開催した学生発表会では24件の口頭発表と32件のポスター発表が行われ、2日目に開催した講演会「海水と私たちの生活」では4件の講演が行われました。

1日目は実行委員長である私から開催の趣旨等について説明させていただき、最初の口頭発表がスタートしました（写真1）。今回の学生研究発表会では発表時間8分・質疑応答3分に設定させていただきましたが、よく事前準備された発表ばかりで、質疑応答も活発に行われました。しかし、学生からの質問が少なかったことは残念でした。口頭発表は16時過ぎに終わり、16時30分からは9階のロビーでポスター発表が行われました。発表件数が32件と多いことを踏まえて前半と後半の2部制になりましたが、ここでも活発な質疑応答が行われました。

懇親会（写真2）はポスター発表会場と同じ9階にある「海峡ホール」で行われました。まず、実行委員長である私が簡単な挨拶をさせていただき、日本海水学会会長の大井隆夫先生（上智大学）からご挨拶をいただいた後に日本海水学会副会長の稲盛勉様（日本塩工業会）に乾杯のご挨拶をいただきました。その後、下関観光コンベンション協会が差し入れてくださったふく刺しなど美味しい料理・お酒を楽しみながら、他大学の学生や参加者と交流を深めました。しばらく歓談した後に、優秀賞発表選考委員長の三角隆太先生（横浜国立大学）から優秀賞の受賞者が発表され、若手会会長の松本真和先生（日本大学）から賞状と記念品が授与されました。今回の受賞者は、千葉大学の石山達也さん「海水を用いた層状複水酸化物の合成方法の開発」、千葉工業大学の三ッ口舞さん「超分子破壊された疎水性腐



写真1：口頭発表の様子



写真2：懇親会の様子

植物質の水に対する溶解性」、大阪薬科大学の野上聡さん「 κ -carrageenanを用いたクルクミンの経口ゼリー剤の開発」、神戸大学の東郷範弘さん「浸透圧補助低圧逆浸透法による海水高濃縮技術に関する基礎的検討」、横浜国立大学の朝比奈英里さん「攪拌羽根への結晶粒子の衝突に伴う摩耗現象に対する結晶種類の影響」、慶應義塾大学の福島成貴さん「二酸化炭素 + 2-プロパノールハイドレートとの相平衡条件測定および結晶構造解析」、そして山口大学の田中良平さん「水晶振動子マイクロバランスを用いたポリアミド系複合逆浸透膜の活性層内電荷密度の測定」の合計7名でした。受賞者の皆さん、おめでとうございました。そして、再び歓談した後に、第68年会実行委員長の松本道明先生（同志社大学）および第9回学生研究発表会実行委員長の朝本紘充先生（日本大学）からこれら2つのイベント

* 山口大学大学院創成科学研究科 〒755-8611 山口県宇部市常盤台2-16-1

の告知があり、最後に長年に渡り若手会を支えてくださっている東郷育朗様（サンアクティス）から締めのご挨拶をいただきました。

2日目の午前中は講演会「海水と私たちの生活」があり、4件の講演がありました。まず、三菱重工業株式会社の伊藤嘉晃様には「海水淡水化技術の動向と課題」と題して、逆浸透膜を用いた海水淡水化における省エネ技術およびこれから解決すべき課題を中心に話ししていただきました。次に、山口大学の安川政宏先生には、「塩分濃度差と分離膜を利用してエネルギーを得る」と題して、塩分濃度差エネルギーを電力に変換して回収する手法である圧力補助浸透法（PRO）および逆電気透析（RED）について解説していただきました。次に、秋田県立大学の石川匡子先生には、「食塩中のにがり成分が調理特性に及ぼす影響」と題して、にがり成分が塩の呈味性に与える影響および調理に与える影響を中心に解説していただきました。そして最後に、ナイカイ塩業株式会社の小林秀嗣様には、「ナイカイ塩業（株）における海水総合利用プロセス」と題して、ナイカイ塩業（株）が培ってきた海水利用プロセスの中で、特に化成品製造プロセス及び品質管理について紹介していただきました。

午後は14時に海響館に集合し、集合写真（写真3）を撮った後に海響館における海水採水・循環・再利用プロセスを紹介していただきながら水族館における海水利用について学びました。1日目は時折落雷もあるような大荒れの天気であったことから当日の天候が心配されましたが、参加者51名の日頃の行いの良さからか、見学会当日は晴天であり、柔らかな日差しと少し冷たい海風を感じながらの見学会となりました。

今回の学生研究発表会の企画運営には、日本海水学会の皆様をはじめ、多くの方からご支援を頂きました。若手会会長の松本真和先生には、参加者の増員をはじめ、今回の学生研究発表の成功に全面的にお力添えを頂きました。若手会会員の皆様、特に（財）塩事業センター海水総合研究所の中村彰夫様

には、多岐に渡りサポートしていただきました。海峽メッセの吉田英義様には企画段階から当日の運営まで多大なるご協力を頂きました。下関市立しものせき水族館（海響館）の立川利幸様および和田政士様には、見学会で大変お世話になりました。また、本研究発表会の趣旨にご賛同くださり共催していただいた公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団および日本海水学会西日本支部、懇親会に豪華なふく刺しの差し入れをしてくださった下関観光コンベンション協会、当日の円滑な運営に協力してくれた山口大学と日本大学の学生の皆さん、そして何よりも遠方からわざわざ下関に足を運んでくださった参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

次回の第9回学生研究発表会は、平成30年3月に東京都の「たばこと塩の博物館」で開催する予定です。今回と同様に多くの方に参加していただきませうようお願い申し上げます。また、学生研究発表会を主催する若手会では随時新会員を募集しております。若手会への入会は無料であり、年会費もかかりません。さらに、若手会の会員には年齢制限がありません。若手会の目的・活動内容・入会方法の詳細は学会HPに掲載されておりますので、非会員の方はこの機に学会HPを確認していただき、趣旨にご賛同していただければ是非入会していただきますようお願い申し上げます。



写真3：見学会での集合写真